

第1回 公共政策デザインコンペ
 新しいまち案内情報提供形態の提案～歩いて巡りよいまちづくりへ向けて・京都編～
 塩見康博・中井周作・長久保敦志・橋本幸雄・藤田大輔

1. 背景

外国人旅行者の訪日を促進する「グローバル観光戦略」が策定され、“ようこそ！ ジャパン”のかけ声の下、官民一体となり観光立国を目指している。

このため、地理に不案内であり、日本語を読めない外国人旅行者にも回遊しやすいまちづくりを進める必要がある。

こと京都は、観光都市としてのポテンシャルは高いものの、基盤目状の構成をなす通りには古来の名前がついており、日本語の読めない外国人にとっては識別が難しい。さらに、似たような通りの並びには特徴的なランドマークが少なく、地理に不案内な者にとっては現在位置を特定しにくい。

京都市では、京町家などが多い中心街で一般車両の乗り入れを規制する計画もあることから、京都市を対象に歩いて巡りよいまちづくりのための施策を提案する。



図1 京都市中心部の通りの風景

2. 提案する施策

観光客が街を回遊するのに必要な情報として、現在位置情報と方角情報が挙げられる。すなわち、土地勘のない場所でも、観光客は「現在位置の把握」及び、「方角の把握」ができれば、快適に観光することができると考えられる。そこで、現在位置、方角を把握するための情報を観光客に効率的に提供する施策をそれぞれ提案する。

- ▶ **数字・記号を用いた通り名表示法の提案**・・・既存の通り名に番号、及び記号を振り、観光マップなどと対応させることで現在地、及び目的地を分かりやすくする。
- ▶ **地理案内情報を盛り込んだマンホールの提案**・・・一定間隔に設置されているマンホールに東西南北の情報、加えてそのマンホールの設置場所情報を記載することで、観光客に現在位置、方角情報を提供する。

3. 新しい通り名表示方法

京都市内において、漢字やローマ字で表記されている「通り」や「交差点」の名前(四条河原町, Sijyo-Kawaramachiなど)は、初めて京都を訪れた観光客、特に外国人にとっては非常にわかりづらいと考えられる。

そこで、日本語を解さない者でも識別し易いよう、通り名を数字とアルファベットで表現する。具体例として、京都市中心部を対象に通り名を数字、アルファベットで表した地図を図2に示す。地図では東西方向の通りには北からA, B, C..., 南北方向の通りには西から1, 2, 3...を付した。また、数字とアルファベットによる表記を採用した街路の通り名看板の例を図3に示す(図3の看板はE-3交差点上E通り上に設置されていることを示している)。

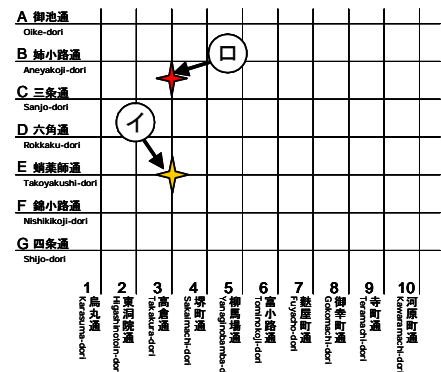


図2 京都市中心部の地図



図3 提案する通り名標識例
(図2中イ地点対象)

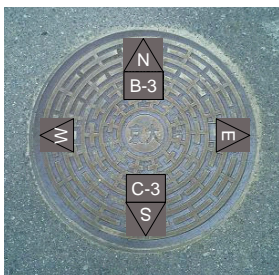


図4 提案するマンホール例
(図2中ロ地点対象)

4. 地理案内情報を盛り込んだマンホールの提案

地理不案内者が街を回遊する際、最も必要な条件として、街の方角を把握することが挙げられる。もし東西南北を正確に把握しないまま行動すれば、自分が予期せぬ方向へ進んでいるのにも気付くことなく、目的地にはたどり着けず、快適な観光は実現されない。そこで、どの街路にも必ず設置されているマンホールに着目し、マンホールに地理案内情報を付することで、観光客が街の東西南北、及び現在位置を把握できるようにする。

具体的には、図4のように、一般的に存在するマンホールに方角情報をN, S, W, E表記で、また現在地を近接する交差点との位置関係で表す(図4のマンホールは、3番の通り沿い、B-3交差点より南、C-3交差点より北の位置に設置されていることを示している)。

既設のマンホールを利用することで、低コストで施策を実現することが可能となる。

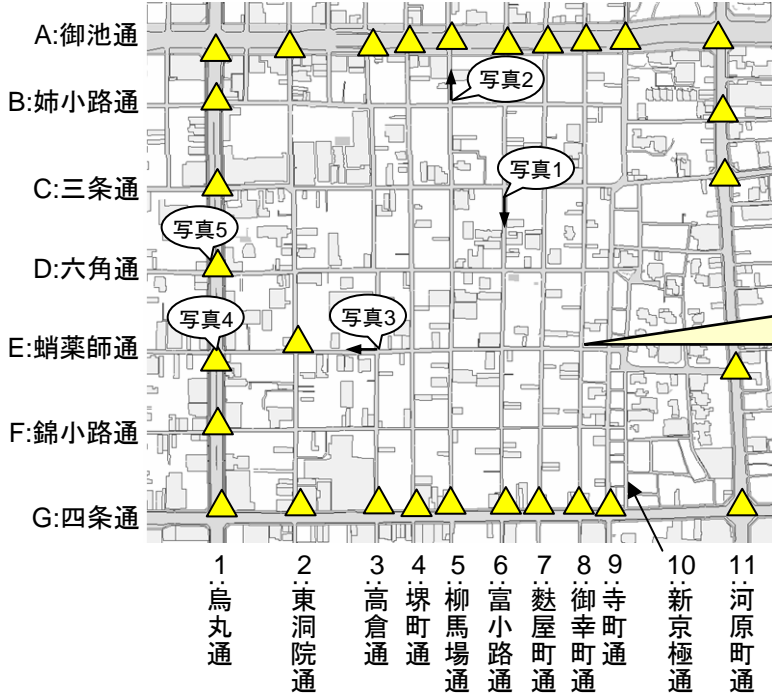
第1回 公共政策デザインコンペ
 新しいまち案内情報提供形態の提案～歩いて巡りよいまちづくりへ向けて・京都編～
 <実験概要>

① 実験対象エリア

- ・京都市中京区
- ・御池通, 河原町通, 四条通, 烏丸通に囲まれるエリア

② 実験対象エリアの現況

- ・ランドマークに乏しい街路 (参照:写真1, 写真2, 写真3)
- ・日本語に通じない者には認識しにくい通り名, 及び通り名標識(参照:写真4, 写真5)
- ・数少ない通り名標識(図中の▲マークの箇所のみ)



③ 実験概要

- ・通りの名前を左下図のようにアルファベット, 数字で表したマップを作成する. また, その表記方法を併記した通り名標識を設置する(下図).



- ・下図のように方角情報を盛り込んだマンホールを対象エリア内に設置する (汚水・雨水のマンホールを対象).



- 現状との比較で, 回遊行動の快適性がどのように変化するかを, 日本人観光客・外国人観光客を対象にアンケート・プロブデータを用いて分析する.

④ 実験実施時期: 11月～12月 (観光シーズンを予定)

⑤ 実験の規模: 外国人被験者は各大学の留学生などから30名程度募集する. 日本人観光客には, アンケート, 対象地域のマップ, 店舗情報等を街頭配布し, アンケートに回答してもらう. 街頭配布のアンケートは街角に特設ポストを設置して回収する.

⑥ 現況の写真



写真1 三条富小路交差点から南向き



写真2 三条柳馬場交差点から北向き



写真3 蛸薬師高倉交差点から西向き



写真4 通り名標識(烏丸蛸薬師交差点)



写真5 通り名標識(烏丸六角交差点)